【樹木の部屋】

ムクゲ（アオイ科フヨウ属　Hibiscus syriacus ）

和名：むくげ(木槿)　　別名：木波知須（キハチス)、もくげ

英名：Rose of sharon、Shrub althea

アオイ目　落葉樹　　原産地：中国

花言葉：信念、新しい美　　花の色：　白、赤、桃、紫、

← 写真-１　ムクゲ
撮影日：2015 年 07 月 13 日
撮影場所：モントレー
(スイス)にて
撮影者：M　さん

→ 写真-２　ムクゲ
撮影日：2015 年 07 月 13 日
撮影場所：モントレー(スイス)にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　ムクゲの花
撮影日：2015 年 07 月 13 日
撮影場所：モントレー(スイス)にて
撮影者：M　さん

スイス西部、レマン湖畔のラヴォー地区を訪れた際、シェーブル駅前の民家の庭先に咲いていました。珍し

い紫色です。遠目にも、ムクゲだと解りましたが、紫色なので・・。近寄って観ると、やはりムクゲでした。写真の品種は、ブルー バード。別名オワゾ ブル。

奈良時代から日本人に親しまれてきたムクゲ。和歌の世界では、秋の季語とされ、松尾芭蕉や若山牧水など、多くの歌人が詩の題材に使ってきました。花の優美さと、儚く散る姿が、多くの人の心をとらえたのかも・・。旧暦の秋は今では夏にあたるため、現代では夏の代表的な花となっています。

ムクゲには、一重咲き、半八重咲き、八重咲きがあり、

一重咲きは、花びらの長さや幅から、「細弁」「中弁」「広弁」の３つに分けられ、白い花を咲かせる「大徳寺白」や、中心が赤い「日の丸」が代表的な品種だそうです。

半八重咲きは、内側の花びらの大きさと、外側の花びらの枚数によって、「祇園守」「花笠」「バラ咲き」に区別され、「鳥取花笠（トットリハナガサ)」がよく栽培されているそうです。

八重咲きは、花びらの付き方によって、「乱れ咲き」「菊咲き」「ポンポン咲き」の３つに分かれ、菊咲きの「ビコロル」や、「ピンクデライト」など、花びらは品種ごとに個性があるそうです。

＊剪定の適期

剪定時期は基本的に花芽のない秋～春の落葉期。春に芽が伸び始めてからも作業は可能ですが、その場合は５月中～下旬までに終わらせる様に。時期が遅れると花が咲かなくなります。

＊基本の剪定

ムクゲは生育期に枝を伸ばして花芽を付けるので剪定時期を間違わなければ「枝を切ったことが原因で花が咲かない」という失敗はほぼないそうです。芽吹く力が強いので刈り込んで形を整えることも可能で、どこで枝を切っても問題ありませんが、全体のバランス重視が、枝を切ることがポイント。放任しても、ある程度はまとまった樹形になるので、大きさを気にしなければ、ほとんど剪定をする必要はないそうです。その年伸びた枝(花の咲いた枝)を 3～4 芽残して切り落とせば小枝をふやすことができ、高さを抑えたい場合は全体をばっさりと短めに切ってもかまいません。枝が混みあっている場合は、枝の付け根から切り落として樹の内部までしっかりと日が当たるように・・。

＜ ちょっと一言 ＞

ローザンヌからモントルー郊外のシヨン城にかけて広がるレマン湖北岸の丘陵地帯のラヴォー地区は、世界文化遺産に登録されたワインの名産地。見渡す限り、ブドウ畑・・。その向こうに、青いレマン湖。昔ながらの家並みと良くマッチした、美しい光景に、しばし見とれていました。風景を楽しんだ後、振り返って観ると・・。紫色のムクゲでした。スイ

スワインは生産量が少ないため、ほとんどが国内で消費。日本では、手に入りにくいワインだそうです。

ムクゲ、フヨウ、ハイビスカスは良く似た花ですが、その見分け方は？。

＊花の特徴

・ムクゲ：柱頭の下に雄蕊が付き、雌蘂の先がまっすぐ
・フヨウ：雌蘂の先が上を向く
・ハイビスカス：雄蕊が柱頭の先端に付き、花の中心部が赤や桃。

＊葉の特徴

・ムクゲ：花より小さく、濃い緑色で切れ込みが深い
・フヨウ：花と同じくらいの大きさで、薄い緑色
・ハイビスカス：葉にツヤがあり、切れ込みが浅い。

柱頭：雌蘂の先端。粘液を分泌し、花粉の付着する部分。